

## おいで里山の会で2月1日水戸部理事長が記念講演

# 地産地消の再エネで地域を豊かにしよう！

太白区茂庭地区で「メガソーラー建設計画」が取りざたされた時から自然環境を守る運動に立ち上がった「おいで里山の会」が2月1日第4回定期総会を開催しました。総会には太白区秋保町のメガソーラー建設予定地で農業を始めた FFF 仙台の学生が呼ばれ、山林での農業展開への協力を訴えました（詳細は裏面の河北新報記事を参照）。



総会後の記念講演に、きらきら発電理事長の水戸部秀利氏が招かれ、「地域を豊かにする、地産地消の再エネ」と題した講演をおよそ1時間にわたっておこないました。

### 生活に深くかかわるエネルギー問題を選挙の争点にすべき

水戸部氏は最初に総選挙にふれ、「選挙の争点になるべきエネルギー問題が話題にならない。エネルギーは生活に深くかかわっているから、きちんと政策の争点にすべき」と語り始めました。再エネを市民の手で広めるためにきらきら発電を立ち上げたが、そのきっかけがああ3・11の衝撃。二度と福島事故の惨劇を繰り返さないためにも、自然エネルギーを市民の手でひろめることを考えたと説明し、エネルギー政策が私たちの生活の基本にあると強調しました。

### 里山には太陽光・水力・バイオマスと自然エネルギーの可能性がいっぱい

水戸部氏は故郷山形県金山町の NPO 金山電雪の活動も紹介し、「里山には太陽光発電・水力発電・風力発電・バイオマス発電など、利用できるエネルギーがたくさん眠っている。限界集落・消滅可能性自治体などと過疎化・高齢化の里山を揶揄するが、そういう里山こそ『食糧とエネルギーを生産する持続可能な永続地帯』。金山町一つとっても電気と石油だけで年間14億円もの金が町外に流出する。再エネで流出するお金を減らせば、豊かな地域に生まれ変わる」と強調しました。

### 農業と共に歩むソーラーシェアリング

NPO 金山電雪では畑の中にソーラーシェアリングを設置。固定価格買取制度の20年間で元が取れ、かつ温暖化で厳しい暑さになっても夏の太陽の日射しを和らげてくれるので、ソーラーシェアリングの畑は野菜にも優しい。実際田んぼで農業収益を上げている事例もあると紹介。里山の今後の可能性を指摘しました。

### 2月21日みちのく電記上映会

FFF 仙台の若者が持続可能社会を求めて活動する姿を追ったドキュメンタリー映画「みちのく電記」が2月21日仙台市メディアテーク(定禅寺通り)で開催されます。主催は宮城県保険医協会、あいコープみやぎや地域市民電力連絡会が協賛団体となっています。

きらきら発電・市民共同発電所 ニュース

2026年2月

第133号

〒981-3215 仙台市泉区北  
中山3丁目17-12

070(2010)3777

HP [kirakirahatuden.com/](http://kirakirahatuden.com/)  
[hirohata3888@outlook.jp](mailto:hirohata3888@outlook.jp)

# それでも日本に原発は必要なのか？ 潰される再生可能エネルギー

2024年女川集会で講演された青木美希氏の新書、2月20日販売開始

取り扱い **きらきら発電**

販売価格千円 百円お安くしています。

申し込み先

電話 070-2010-3777

メール hirohata3888@outlook.jp

(第三種郵便物認可)

【朝刊月ぎめ定価(税込)3,900円 1部売り160円】

河

北

気候変動問題などに取り組む仙台市の若者団体「Future Fridays For Future (未来のための金曜日、FFF) Sendai」の学生らが、太白区秋保地区の荒廃した山林で農業を始めた。山林を購入して保全するとともに、生活に困窮する人たちに食料を提供する目標を掲げ、クラウドファンディング(CF)で活動資金を募っている。

山林は秋保地区の温泉街に近い約20畝で、地権者から利用の許可を得た。森の中で農作物を栽培したり、家畜を育てたりする「森林農業(アグロフォレストリー)」を実践する。少量多品種の野菜作りや山菜採り、ヤギ飼育、果樹園といった構想を描き、既に現地で畑を開墾してサトイモやカボチャの苗を植え始めた。

活動グループ名は「アグロフォレストリー・ラボ」設立した東北大の学生3人は、FFFや生活困窮世帯に食料品を配布するNPO法人フードバンク仙台(仙

## 荒廃の山林 農業で保全

仙台・秋保 若者団体 育てた野菜困窮世帯に



仙台市太白区秋保地区の山林で農業を始めたメンバーら＝6月30日

### フードバンク供給モデルつくる

台(市)で活動してきた。フードバンクでは、食料支援に使うジャガイモやタマネギ、ニンジン年間計約3トを生産してきた農業経験がある。将来的にグループの

法人化を視野に入れる。グループの一員で農学研究所の嶋原宏一朗さん(27)は「これまで地域に守られ

きた山林の管理が難しく、自分たちでも購入でき

きる価格に下がってきた。農業や参加型ワークショップを通して、山を保全していく」と説明する。

所有者の管理が行き届かなくなった山林は、大規模太陽光発電所(メガソーラー)などの開発対象になりやすい。全国で地元とのトラブルに発展するケースが相次いでいる。

「大規模開発の問題点に関心を持つ若い世代は多いと思う。こうした環境問題と一緒に貧困問題に取り組みたい」と農学部4年の前野めぐるさん(22)。情報科学研究科の大槻佳輝さん(25)は「山を活用してフードバンク向けの有機野菜を作るなどのモデルを生み出したい」と熱意を語る。

CFは専用サイト「CAMPFIRE(キャンプファイヤー)」で31日まで実施し、目標額は600万円。山林の購入資金や備品購入費、ホームページ作成費に充てる。(菊間深哉)